

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

令和元年 11月 20日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 医学研究科・社会健康医学系専攻

職 名・学 年 大学院生・博士後期課程2年

氏 名 竹谷 朱 (タケヤ アヤ)

助成の種類	令和元年度 ・ 国際研究集会発表助成	
研究集会名	第26回アジア・オセアニア産婦人科学術集会(26th AOCOG)	
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()	
発表題目	Trial of labor after cesarean delivery (TOLAC) in Japan : Rates and complications	
開催場所	フィリピン・マニラ	
渡航期間	2019年 11月 9日 ~ 2019年 11月 15日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()	
会計報告	交付を受けた助成金額	150,000円
	使用した助成金額	150,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助成金の使途内訳	学会登録費： 32,540円
		渡航費往復： 78,000円
宿泊費： 61,000円		
上記に助成金を充当		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)	

成果の概要

医学研究科博士課程2年

竹谷 朱

作成日 令和元年11月20日

今回、京都大学教育研究振興財団の助成を得て、国際学会（アジア・オセアニア産婦人科学術集会）での発表、参加をする機会を得ることができました。学会の概要、発表の概要をここでまとめ、成果の報告をさせていただきます。

1. 学会の概要

研究集会名：第26回アジア・オセアニア産婦人科学術集会（26th AOCOG）

開催場所：フィリピン・マニラ

開催期間：2019年 11月 10日 ～ 2019年 11月 14日

アジア・オセアニア産婦人科学術集会とは、アジア・オセアニアの28ヶ国の産婦人科学に携わる医療従事者、研究者が集まる国際学会です。また、講演ではアジア・オセアニアだけではなく、欧米の研究者も登壇し、各地域や世界で抱える問題を共有する機会を得ることができます。今回、私は第26回アジア・オセアニア産婦人科学術集会に参加し、多種多様な研究発表、講演に接する事ができました。これは、今後の自身の研究に対し、大変刺激になる貴重な機会になりました。

今回の学会で論じられたテーマは、世界的に上昇する帝王切開の問題、切迫早産の治療、子宮内膜症の治療の変遷、子宮頸がんの予防～検診方法・HPV ワクチンについて、など多岐に渡りました。それを各国の経済状況を含めた医療環境、保険などのシステムを合わせながら論じることは、私の視野を広げる非常に貴重な経験になりました。

2. 発表の概要

今回私が発表した研究は、下記の内容です。

【演題名】

（和文）日本における帝王切開既往をもつ妊婦の経膣分娩と合併症リスクの検討

（英文）Trial of labor after cesarean delivery (TOLAC) in Japan:

Rates and complications

【背景】

帝王切開率の増加は、世界的な問題になっている。帝王切開率の減少に貢献する主要因に、帝王切開既往をもつ妊婦の経膣分娩（Trial of labor after cesarean delivery: TOLAC）

がある。TOLAC の実施状況は、日本では明らかではない。本研究の目的は、日本での TOLAC 実施割合、合併症の発生割合を調べることである。

【方法】

本研究は、日本産婦人科学会の周産期登録データベースを用いた記述疫学研究である。2013 年から 2015 年に分娩した妊婦のうち、既往帝王切開が 1 回で、胎児が単胎かつ頭位の正期産の妊婦を対象とした。第一に、解析対象者のうち TOLAC が選択された妊婦の割合、各施設の TOLAC 実施割合を求めた。第二に、TOLAC の周産期合併症の発生を記述した。

【結果】

解析対象の妊婦は 34,457 人で、このうち TOLAC が選択された妊婦は 1,730 人 (5.0%) であった。対象妊婦が分娩した 364 施設のうち、TOLAC を実施したのは 86 施設 (23.6%) のみであった。TOLAC で母体死亡、新生児死亡は発生しておらず、子宮破裂は 8 件 (0.46%) だった。本研究の結果から、日本の TOLAC 実施割合は、諸外国と比較し極めて低いこと、一方、合併症発生割合は諸外国の既報と同様であることがわかった。

【結論】

日本では TOLAC の実施割合は少なく、全く実施していない施設があることから、分娩方法の選択には施設の要因が大きく影響すると推測された。TOLAC では 9 割近くが経膈分娩に至っており、周産期合併症の絶対リスクからみて、TOLAC を希望するかどうかは妊婦個人により異なると考えられる。医療者は、妊婦と TOLAC の有益性及び合併症の情報を共有した上で、分娩方法を決定することも可能と考える。

* 質疑応答

今回の発表後の質疑応答で、対象者の包含基準・除外基準について複数の質問を受けました。本研究では、日本のガイドラインに照らし合わせ対象者の選択基準を設定しましたが、その基準を共有しない海外の医療者には、納得し難い様子でした。私自身、日本の医療やガイドラインについて、改めて考える機会になりました。また、TOLAC の具体的な管理について質問を受け、参加していたフィリピンやインドなどの医療者と管理方法について論じることができました。

3. 謝辞

国際学会経験の少ない私にとって、今回は大変有意義な経験をすることができました。今後も引き続き研究の研鑽を重ね、母子の健康や医療者に寄与できる研究を目指したいと思います。今回、研究発表について助成を認めていただきました京都大学教育研究振興財団の関係者各位に心より感謝を申し上げます。